

THE ROOM BOOK 2011

マイルームの
参考書。

Looking for where you feel so relaxed and comfortable is looking for your lifestyle. This book introduces various rooms which are loved by various kinds of people. They will give you some ideas to brush up your life.

憧れを実現した
ボクのこだわり空間。



日本で最も

アメリカ

東京都心部から車で約1時間半。緑豊かな住宅街が広がる埼玉県は入間市に、
ジョンソンタウンと呼ばれ親しまれる、アメリカ然とした街がある。
そこには米軍ハウスをベースとした住居と店舗が立ち並び、ワーゲンバスやアメ車が行き来する。
その景観、街並み、空気感は、まさにアメリカンレジデンス。
住人たちは思い思いに自宅の庭に手を施し、そして内装までカスタムする。
夏になれば、そこら中のテラスや庭で、複数世帯が集まるBBQパーティも開催されるとか。
そんなリアルアメリカンライフが手に入る街、ジョンソンタウンに潜入した。

Photo/S.Yokoyama 横山慎一 Text/S.Yamamoto 山本サトシ (PrCUS)

Welcome to Johnson Town

My Cosmo

Lightning Extra Issue Vol.102
THE ROOM BOOK 2011
Opening Special





+1部屋の増築で 3人家族も悠々暮らし。

上原 渉さん宅

おとし12月より入居されている上原さん御一家。図面で見ると「少し狭いかも」と思っていたそうだが、内見するや否や、御夫婦ともにひと目惚れ。狭さについても“外壁を壊してひと部屋増築する”といった磯野商会の太っ腹な対応で問題クリア。アメリカンカルチャーが大好きだという、御主人の夢を叶えた1軒。



1.白の内装にアンティークチェストが映える。上階の主寝室と子ども部屋を繋ぐ金網の渡り廊下は、増築の際に追加 2.コチラは勝手口。長男の聖君もご満悦 3.奥さまのお気に入りであるショーケース。ファイヤーキングなどの食器がズラリ 4.玄関口には渉さんの愛車ディフェンダーが堂々と



憧れの アメリカンライフを 手に入れる。

その特異な街作りから、全国各地のアメリカ好きが
移り住んでくるシヨソソタウン。果たしてその実情は？
そんな疑問を解消すべく、我々は潜入取材とともに、
管理運営を手掛ける磯野商会代表を直撃した。

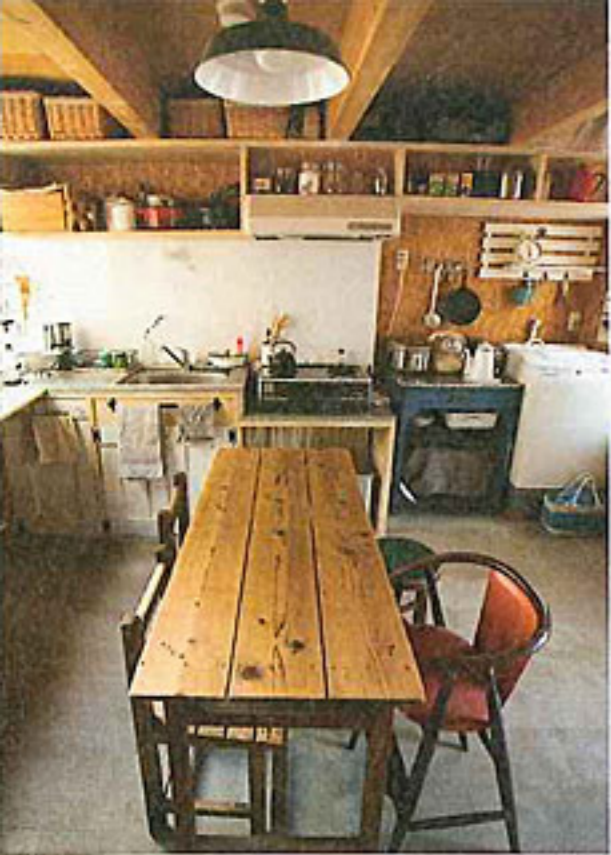
子どもの頃、父が管理していたこの土地に何度も遊びに来ていたんですよ。当時はまだ米軍ハウスなんて呼び名はなかったけど、そのアメリカンな街並みは、幼心ながらにとても印象的だったのを覚えてます」
その後、時が経つこと数十年。実兄より会社を引き継いだ磯野さんは、日本にアメリカを生み出すという偉業の第一歩を踏み出す。
「当時この住宅地は大変老朽化してまして、かなり荒廃してたんですね。その再生開発に着手することになるんですが、どうしても子ども時代に

昭和
和11年よりこの土地を管理し始め、今日に至るまで米軍ハウスとその街並みを維持しつつ、さらに進化発展させ続ける磯野商会。そのすべてのコンセプトを立案し実行する同社の代表・磯野達雄氏に、シヨソソタウンが日本のアメリカで在り続ける由縁を聞いてきた。
「僕は元々東京生まれなんですけど、



磯野商会代表
磯野達雄さん





1.「今は少し荒れていて……」と言う庭部分だが、敷石まで自身で手掛けたという手の凝り様には感服 2.ダイニングキッチンに鎮座する、アンティークのダイニングテーブルが存在感高し

都会では味わえない 質の高い休日。

崎山 剛さん宅

北海道出身の崎山さん。現在の勤め先は渋谷と言うが、片道1時間半オーバーの通勤時間と引き換えにしてまでも、ジョンソントウンでの生活は魅力的だったとか。「休みの質が全然違います」。そう語る氏の趣味は日曜大工。備え付けの棚やパーテーションなど、多様なモノをDIYで作製し、家の各所に設置し使用している。



1.裏手には愛車のビートルが。コチラももちろん、お色は赤 2.赤を基調とした内装に、欧州家具とアメリカ雑貨、マリメッコのテキスタイルが共存する 3.玄関ポーチの入口は、同じくジョンソントウン内に住む木工職人さんの手作り品

ポップで雑多で女性らしい 赤基調のセンシティブ部屋。

竹村純子さん宅

関西でエディトリアルデザイナーとして働いていた竹村さん。仕事の幅を広げるための東京進出拠点に選んだのが、ここジョンソントウン。プレーンかつアメリカ然とした内外観は、自身の世界観にジャストフィットする！と、即決したそう。この部屋で1番のお気に入りだというボールチェアが、ひと際の存在感を放つ。



Welcome to Johnson Town

My Cosmo

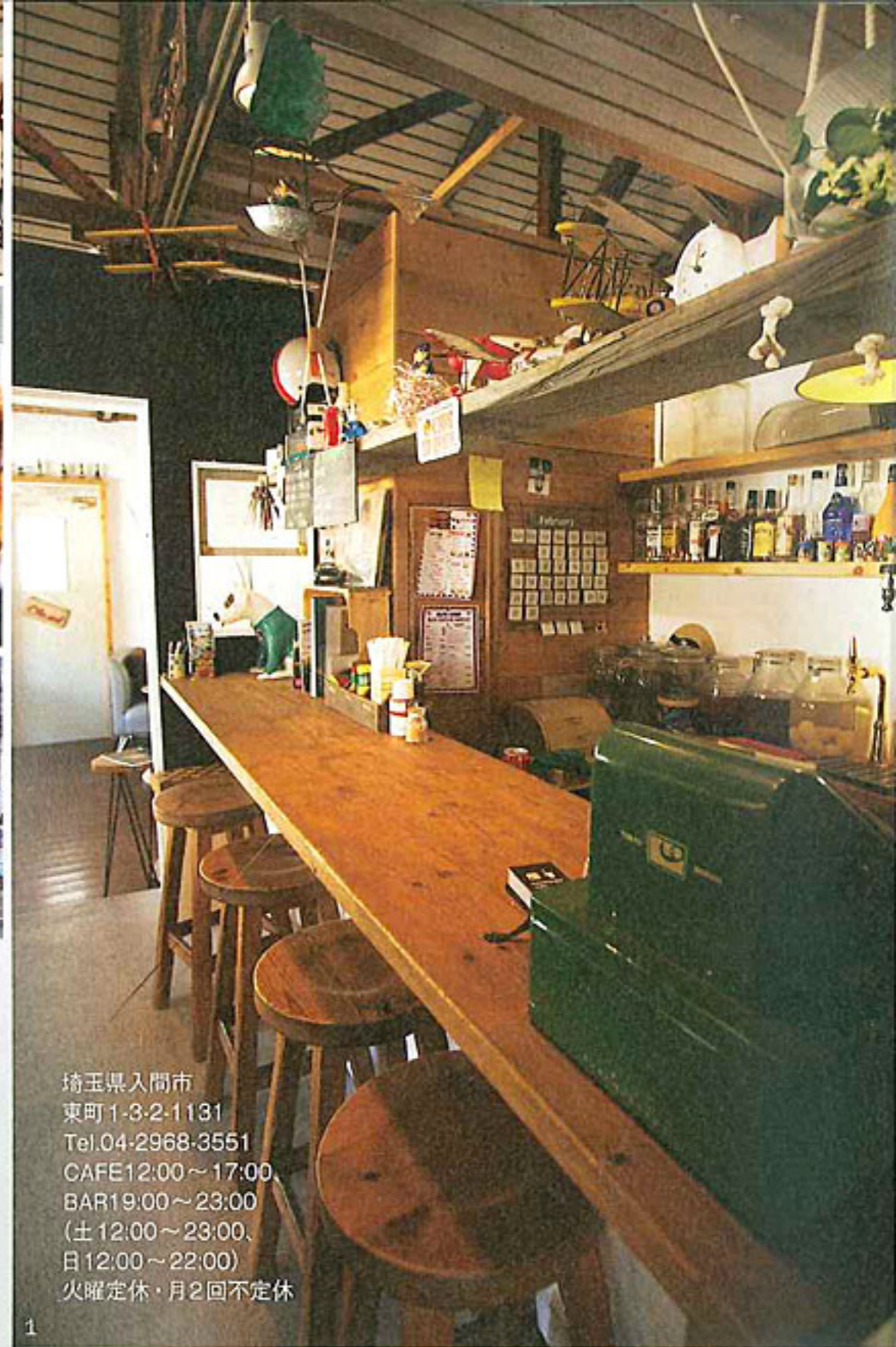
Lightning Extra Issue Vol.102
THE ROOM BOOK 2011
Opening Special



見たこの街並みを壊す気になれなくて。それで、築60年以上も経過していた米軍ハウスを、面影も残しつつ快適に住めるようリフォームし始めたんです。そこからですね、今のジョンソントウンが始まったのは。それからは、新しく建てる建物は可能な限り米軍ハウスの様式に統一し、街並みをキープしていくように努めています。その際使用するものは現代の建築資材ですので、居住性も極めて快適ですよ。床暖房だって入ってますしね。僕はコレを、平成ハウス、と呼んでいます。入居者からの評判もすごく良いですね。さらに、米軍ハウス・平成ハウスともに、著しく街の景観や家の雰囲気を壊さなければ、基本的に内外装に手を加えることは自由。例えば備え付けの棚を設置するとか内壁を塗り替えるとかのDIYは、ご相談さえいただければまったく問題ないですね。

うーん。聞けば聞くほどアメリカン。となれば、気になるのは実際の住民の暮らしぶりだが、そこにも、この街には固有のスタイルがある。「タウン内の家は、どこも塀がないんです。それも元々は街並みのイメージ作りから始まったことなんです。結果、住民同士を深く繋がる要因にもなっているんです。お宅の芝生もついでに刈つといたよ、みたいだね。そういう人と人との関わり合いこそ、この街の一番の魅力だと、僕は思いますね」

アメリカンな街並みに、昔ながらの日本人的な繋がりがある。そんな理想郷のような街、ジョンソントウン。貴方も住みたくなかったですよ？



愛犬家御用達のタウンの看板カフェ。

CAFE BLUE CORN

エリア内でも一等地と呼ぶべき立地に居を構える、ジョンソントウンのアイコン的カフェ&バー。むき出しの合板内壁に装飾が施される店内では、ハンドメイドのドッグチョーカーなども販売。オーナーが愛犬家と言うこともあり、店内はノーリードでも愛犬と同伴できるのも嬉しい。ライブなどの各種イベントも多数開催する。

1. ほど良い装飾がセンス良しなメインカウンター。レトロな質感のキャッシャーも雰囲気良好 2. レザーにコンチョがあしらわれたアメカジライクなドッグチョーカーなど、ハンドメイドの各種ドッググッズも販売中 3. 照り焼きチキンバーガー。750円 4. ブルーで統一された外観 5. ワーゲンバスオーナーでもある店長の山本さん

埼玉県入間市
東町1-3-2-1131
Tel.04-2968-3551
CAFE12:00~17:00
BAR19:00~23:00
(土12:00~23:00、
日12:00~22:00)
火曜定休・月2回不定休

ゲンな ヨツプを満喫する。

Johnson Town



1. ダウンライトが効果的に商品を演出するトップコーナー。オリジナルスニーカーも網羅している 2. ヴィンテージのラビットと手書きの三角看板が目印。左はオーナーの原さん 3.ズラッと並んだデニムストックは圧巻 4. 驚愕の超肉厚生地、240Zデニムを使用するサムライジーンズの左綾ジーンズ。3万1290円

サムライジーンズの魂を集約する。

ON THE ROAD

2010年の7月にオープンしたばかりという、東日本では初めてのサムライジーンズのオンラインショップ。脱サラ後、晴れてショップオーナーとなった原さんは、サムライジーンズに魅入られる余り、アポなしで同ブランドの大阪本社に詰め掛けたこともあるという筋金入り。あくまでユーザー目線に立った店作りがモットー。



埼玉県入間市
東町1-5-8-4002N
Tel.04-2946-8419
11:00~20:00 不定休





埼玉県入間市
東町1-2-1-3720
Tel.04-2965-0701
11:00~18:30
(金土日11:00~23:00)
夏期延長予定あり



3.テーブルに置かれた星条旗柄ランチョンマットもセンス良し。コチラも奥さまの手作り。入口付近は雑貨品の販売スペース 4.大通りに面した外観は一見さんも入りやすい

オーナー夫婦の想いが宿る手作り店。

CAFE 彩の森

ジョンソンタウンの最南端。国道463号沿いにて、昨年11月にオープンしたニューカマー。クラシックなカントリーアメリカンをイメージした、広々とした店内は居心地抜群。設置される什器やテーブルなどの多くは、オーナーの旦那さまの手作りというから驚きだ。カフェの他、同じく手作りの生活雑貨なども販売中。

1.テーブルに置かれたちょっとした小物入れにも、どこか心安らく気の利いた絵柄が。コチラは奥さまの手描き作品 2.カフェタイムの看板メニュー、ケーキセット。ドリンク1品付きで550円



雰囲気バツ アメリカンシ

Welcome to

My Cosmo

Lightning Extra Issue Vol.102
THE ROOM BOOK 2011
Opening Special



木作品もそろえるナチュラル派。

こだまカフェ

トウンキーウッドワークスという木工製品ブランドを展開するご主人と、カフェを仕切る奥さま。こだまカフェは、流木やご主人の手作り家具で統一された、タウン内でも随一のアースコンシャスな空間。カフェとしての営業はもちろん、定期的に行われる各種作家作品の展示会や、すべて購入可能という什器類にも要注目。



1.通りを行く人々の目をひと際惹き付ける、流木で組み上げられたショップゲート。ショップコンセプトが如実に表現されている 2.ランチセットタコライス。950円 3.トウンキーウッドワークスの小物類。他にもバイレックスガラスアーティストなどの作品も販売する 4.ハーフオープンスペースも気持ち良い



埼玉県入間市
東町1-4-8-4713
Tel.04-2963-3377
11:00~20:00
(木金土11:00~23:00)
月曜、第3火曜定休